

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成30年度 第1回相模原市地域福祉推進協議会		
事務局 (担当課)		健康福祉局 福祉部 地域福祉課 電話 042-769-9222(直通)		
開催日時		平成30年5月28日(月) 午後2時15分～午後4時		
開催場所		相模原市立環境情報センター 2階 学習室		
出席者	委員	11人(別紙のとおり)		
	その他	2人(市社会福祉協議会職員)		
	事務局	6人(福祉部長、地域福祉課長他4人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 委員自己紹介、職員紹介 3 会長及び副会長の選出について 4 議題 (1) 地域福祉推進協議会について (2) 第3期地域福祉計画について (3) 第4期地域福祉計画の策定について 5 その他 6 閉会		

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局等の発言)

### 1 開会

### 2 委員自己紹介、職員紹介

### 3 会長及び副会長の選出について

委員の互選により、会長に小野委員、副会長に森川委員が選任された。

### 4 議題

#### (1) 地域福祉推進協議会について

事務局より、資料に基づき、地域福祉推進協議会の概要を説明した。

#### (2) 第3期地域福祉計画について

事務局より、資料に基づき、第3期地域福祉計画の概要、進行管理、今年度の予定等について説明した。

○コミュニティソーシャルワーカーについては、基本目標3の人材づくりに位置付けられているが、コミュニティソーシャルワーカーは全ての基本目標に関係すると思うので、もう少しわかりやすい表現をしたほうがよいのではないか。包括的な支援に取り組んでいるというような具体的な役割を表現してほしい。

●コミュニティソーシャルワーカーは第3期地域福祉計画における重点的な取組の全てに関わる。各地区の様々な課題について、地域の方とお話をしながら、解決に向けて取り組んでいる。活動においては、地域の相談支援機能の充実を支援する役割を果たす一方で、地域資源の活用について、社会福祉施設が部屋を貸し出している状況を把握し、地域の活動に結びつける取組も行っている。

○コミュニティソーシャルワーカーを中心にして、人材、体制、関係づくりを行うのか、進行管理のところでもわかりやすく表現してほしい。

○第3期地域福祉計画の52ページを見ると、体制づくり、関係づくり、人材づくりの中で、CSWが全てに関わってくるところは見えてくると思う。

●コミュニティソーシャルワーカーの位置づけについては、第4期地域福祉計画の策定においても重要な視点なので、御意見を踏まえて検討する。

○第3期地域福祉計画の成果指標の1つに数値を減らすことが目標となっているものがある。一般的には微増を目指すものが多いが、この目標の考え方がわからないので、教えてほしい。

●第3期地域福祉計画の91ページに成果指標があるが、基本目標1については、「地域に活動している機関・団体とのつながりが少ないと思う民生

委員・児童委員の割合」となっている。これは、民生委員・児童委員を対象にアンケートを取っており、地域との繋がりが少ないと思っている方の割合なので、ネットワークが構築されると少ないと思う方の割合が減るという目標である。こちらは第2期地域福祉計画で定めたものを継承しているもので、同協議会で審議を経て設定している。

○コミュニティソーシャルワーカーがどの程度関わっているのかわからないが、本市の中で素晴らしいと思う取組があるのが藤野地区である。地域の資源が少ない中で、民生委員や団体が集まって、コミュニティづくりに取り組んでいる。中央地区では、障害のある方が通所する施設でこども食堂をやっている。こども食堂は、児童が対象だが、その喫茶室のコーナーを上手く使って、地域の色々な方が協力して事業に取り組んでいる。こういった取組にコミュニティソーシャルワーカーが関わっていければよいと思う。都会に行けばいくほど、地域の連携が薄いと感じる。

○基本目標1の成果指標、値が少なくなる目標というのは一般的には分かりにくい。第4期地域福祉計画の策定においては、シンプルにわかりやすい内容にしたほうがよい。

○基本目標3について、どうしても、地域福祉活動をやっていると、人材は育たない、いないという現実がある。今われわれの仲間は70代が多くなっている。5年たったら活動が継続できるのか不安になる。そういう中で、市から求められるものも増えている。第3期地域福祉計画には人材づくりとあるが、誰が育てる、どうやって育てるのか、全く書いていない。若い世代が地域福祉に関わるシステムを構築し、次の活動に繋げる必要がある。行政は専門職を育てることも重要だが、地域福祉は住民同士の支えあい的大事。若者が参加するような仕組みを作らないと、今後、地域福祉の活動が衰退してしまう。地域福祉の担い手育成については、教育機関とも連携して進めてほしい。我々も育てようとしているが、一緒に行政も協力してくれることを望んでいる。次の計画にも位置付けてほしい。

○担い手の育成が課題となっているのは、日本全国どこでも同じ。各地で解決に向けた取組を進めている。第4期地域福祉計画では、その部分も丁寧に記載したほうがよいと考える。

●この後、第4期地域福祉計画の策定について説明を行うが、担い手の確保は重要と考えるので、計画策定の中で、検討していきたい。

○団体間の連携というが、団体は団体の中で忙しいので、さらに連携をするというのはかなり大変である。サポートセンター楽らくで今試みているのは、全く団体に属していない人を地域福祉の活動にスカウトすることであ

る。学校の先生やPTA会長のOB、塾講師、こども会の活動はやっているけどまだ他の仕事ができる余力のある人に声をかけたら人材を集めることができた。楽らくの運営についても、今までは民生委員中心であったが、そうでない方に参加してもらっている。待っているよりも、どうやって参加してもらおうか、積極的に声かけすることが大切。また、70代から80代までのシニアの力をどう活用するかが重要と考えている。

(3) 第4期地域福祉計画の策定について

事務局より、資料に基づき、第4期地域福祉計画において新たに盛り込む取組、策定スケジュール等について説明した。

○包括的な支援体制の整備について、地域生活課題を把握し、解決を試みるとあるが、どんな内容なのか。似たような取組は地域づくり部会でやっている。高齢者が買い物に行けない、外出できなくて足腰が弱くなる。そういう課題の解決に地域で取組もうとしている。包括的な支援体制の整備となると、地域づくり部会と別に、また地域で新たな取組を始めなければいけないのかと思ってしまう。

●新たに何かを取り組むというものではない。福祉コミュニティ形成事業では、地域の課題を地域住民の方が把握し、解決に向けて取り組まれているが、これも包括的な支援体制の一部である。地域づくり部会の取組の話もあったが、次の計画でどのように位置付けるかは、今後検討していきたい。

○新たに何かをやるのではないということを確認したかった。今取り組んでいることを評価して、見直すことのほうが重要である。地域福祉においては、地区社協を中心に行っているサロン活動が大事だと思っている。サロン活動は地域福祉の原点である。サロン活動を活かして、地域の課題解決に向けた方策を見出すことができるのではないか。

●各部門の計画の良いところを繋げ合わせるのが地域福祉計画と考えている。サロン活動を含めた取組の連携を強めていくことが、次の計画のポイントを考えている。

○説明の資料3の2ページの策定体制について、計画の策定に当たっては、成果だけを求めるのではなく、取組を検証して、次の計画を立てるのが基本であるので、今後資料を作成する場合には表現を考慮してほしい。もう1つ伺うが、国のガイドラインには、都道府県の取組と市町村の取組があるが、相模原市は政令市であるので、大都市特例に該当する場合、都道府県の取組を盛り込むことになるのではないか。

●地域福祉計画については、政令市であっても大都市特例はないので、市

町村計画の内容に沿って策定する。

○地域福祉の推進にあっては、行政、市社協ができることは限られ、地域の方の取組が重要である。一方、地域の方は疲弊して、様々な問題がある中、地域の方にあまり負担とならないよう注意しなければならないと考えている。また、世の中の移り変わりや踏まえつつ、これまでの取組の良かった点、悪かった点を整理する必要がある。次の計画を策定する前に、そういった総括を行ったほうがよいのではないかと。

●今までの取組を大事にしながら、第4期地域福祉計画を策定する必要がある。1つの視点として、今まで福祉の活動に携わっていない方にどのように参加していただくかが重要と考えている。市社協と連携しながら考えていきたい。

○第3期地域福祉計画の92ページに成果指標があるが、地域で受けられる福祉サービスについて満足している市民の割合が8.1%しかなく、それを10.8%にあげることが目標としているという理解でよいかと。

●そのとおりである。

○数値の低さに驚いている。これが人にやさしいまちの実態という認識なのか。

●市民の満足度調査を根拠にして設定しているが、この指標については、過去の協議会においても意見をもらっている。成果指標の設定については、皆さまの意見をいただきながら考えていきたい。

○待機児童という課題を何とかしたいという目標を持って取り組んでいるが、学童保育に入れない児童がいたり、放課後にテレビを見させているだけの学童保育があるという状況もある。今後、そういった状況を少しでも解決する方策を考える必要がある。

○資料を見れば、市が素晴らしい取組をしていると感じるが、そういった取組を知らない人に対しての働きかけが少ない。地域の仲間で支えあっているという活動に取り組んでいるが、そういう活動について、市民に知らせてほしい。草の根の活動が広まれば地域が良くなるということを伝えてほしい。

●策定した計画を多くの方に知っていただくために、わかりやすい計画づくりに努めること、地域の活動を周知していくことは、いずれも大切である。第4期地域福祉計画に策定においては、この視点を踏まえて進めていきたい。

○今回は協議会の開催当日に資料が配布されたが、次回は事前に送付してほしい。

●極力、事前にお送りできるように事務局で準備していく。

5 その他

次回開催日は後日調整することになった。

6 閉会

相模原市地域福祉推進協議会委員 出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小野 敏明	特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 田園調布学園大学名誉教授	会 長	出席
2	原 和教	相模原市高齢者福祉施設協議会		出席
3	鈴木 純恵	相模原市障害福祉事業所協会		出席
4	吉岡 輝明	相模原市私立保育園・認定こども園園長会		出席
5	戸塚 英明	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会		出席
6	森川 哲郎	相模原市自治会連合会	副会長	出席
7	飯沼 守	相模原市地区社会福祉協議会		出席
8	原 裕子	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
9	石関 清美	特定非営利活動法人相模原ボランティア協会		出席
10	渡辺 幸雄	公募市民		出席
11	箱山 京子	公募市民		出席